

満行寺の間取り。斜線部分が疎開児童の使用した部屋

太平洋戦争も末の昭和十九年八月、東京の学童たちが黒埼へ疎開してきた。彼らが泊まり生活する場所となったのは木場の満行寺である。

◆疎開児童の宿泊施設の確保
教師や生徒ら六十余人の生活する場所として、満行寺住職の島津忠能さんは、上図のように、本堂にある「お斎場」はもちろん、それに接続する正面の「参詣の間」の一部と家族の使用している座敷の半ばまで疎開児童たちに開放することにした。寺でとりおこなう法事や葬祭の際の多少の不自由は、檀家の人たちからがまんしてもらうことにしたのである。

部屋の割り振りは、
。「お斎場」「参詣の間」「座敷」などは子供たちの休憩・食事・寝室等の部屋に。
。「裏堂」(本堂の裏にある)は学校用品や子供たちそれぞれの所持品を整理しておく部屋に。
。「新宅」(現在の寺前の駐車場にあった建物)を子供たち

が病気になる時を想定して病室として使用することに。
。「本堂正面入口」を子供たちの寮への出入口とし、階段下の両側に男女別にげた箱を設けた。
。トイレは早急に新設することにする。

。風呂はさしあたり近所の、ガス燃料で風呂をわかしている家に頼んで、五・六人ずつ分散して入れてもらう。

◆疎開児童、黒埼に
昭和十九年八月二十六日、燕駅から新潟交通の電車で乗った一行は、間もなく木場駅に到着した。駅には木場部落の婦人会や男女青年団員、木場国民学校の生徒たちが大勢で出迎えていた。

川南国民学校の教師・柴田惣一郎寮長、渡辺タマイさんらに引率された疎開児童六十二人は、東京から付き添ってきた数人の父兄らといっしょに、駅からの道を歩き、満行寺の山門をくぐった。

山門の前では、寮母の島津文字さんを始め、炊事係の小林キヨミさんたちが出迎えた。故亀山木場国民学校長は、疎開児童を迎えた時の模様を『木場小学校百周年記念誌』

(昭和四十七年発行)に次のように記している。
「遂に八月二十日、東京都深川区川南国民学校の七十名の集団疎開学童を受け入れることになった。」

「電鉄の終点燕駅まで迎えに行き、木場で下車して寮の満行寺まで歩いたあの時の子供は、青白いげっそりした顔、落ちくぼんで青みを帯びた眼、細い手足、なんとひ弱い、いたいたい感じであったか……」

これが、疎開児童たちを受け入れなければならぬ校長の眼に映った子供たちの姿であった。わずかに数行の中に、彼らの心情を思い、深いいたわりと同情の気持ちがかもっていることが、感じられる。

間もなく敵機の空襲を受けようとしている故郷の東京から、父母や肉親と分かれてやって来たのである。しかも三年生はまだ年齢八、九歳であり、親許から数百キロも離れた黒埼村木場へ来たのだから、元気のあるはずがない。彼らの心細さ、切なさは受け入れられる側にもひしひしと伝わった。寮夫妻はもとより、関係者

はまごころをこめて子供たちを迎えた。

◆満行寺での生活が始まる
寮の名は「満行寺洗心寮」と名付けられた。寮長は柴田先生のもと、川南国民学校の渡辺タマイ先生、東京から寮母として来た黒沢トミ子さん、そして地元黒埼の寮母島津さん、前田さんが子供たちの世話をすることになった。(前田さんは泊まり込み)

寮生は三年生五人、四年生二十五人、五年生十二人、六年生二十人の合計六十二人だった。

寮生六十二人は、到着の翌日から、先生に引率されて木場国民学校に通い、そこで授業を受けた。

「木場小学校沿革史」昭和十九年の項に「一、集団疎開児童受入れ」と題して、

「戦時施策トシテ都ノ学童ヲ集団疎開スルコトナリ東京都深川区川南国民学校初等科第三学年以上六十二名ヲ八月二十六日本村ニ受入レ木場満行寺ヲ寮トシテ本校へ入学ス」と記されている。

執筆・宮田栄門



満行寺山門

黒埼町の今昔

町史編さん課

木場満行寺への学童疎開 (二)

昭和十九年八月二十六日、川南国民学校からの疎開児童が満行寺に到着。

選挙管理委員会からのお知らせ

選挙投票所が変更されます

中央公民館とりこわしにともない
平成2年の選挙から下表のように

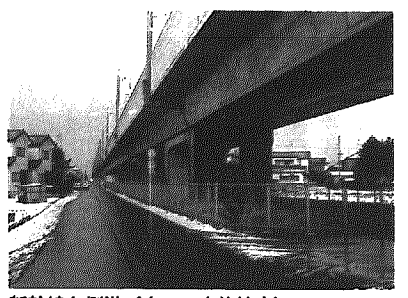
役場庁舎の増改築に伴って中央公民館が取り壊されたため、以後、投票所として使用できなくなりました。

また、立仏保育所を新たに投票所とします。したがって、次に行われる選挙から投票所を下表のように変更します。投票の際はお間違いないようご注意ください。

なお、選挙のつど発行する投票所入場券にも投票所が表示されていますので、お確かめください。

問い合わせは、選挙管理委員会(役場2階 ☎377-3101内線45)まで。

投票所	自治会
第一投票所 農村環境改善センター	金巻、小平方、鳥原新田、鳥原本村、鳥原大明、蓮方団地
第二投票所 興野保育所	興野一〜四新町、中学通
第三投票所 大野小学校	諏訪町、二之町、仲町、五区、七区、八区、新田町、栄町、川原、鳥原新地
第四投票所 善久保育所	善久東、中、西
第五投票所 立仏保育所	柳作第一、第二、立仏第一〜第三、焼鮎団地
第六投票所 山田小学校	上山田第一〜第四、上山田堤付、下山田
第七投票所 寺地保育所	寺地本村、寺地中、寺地下、寺地団地、寺地南団地
第八投票所 板井保育所	板井一〜四
第九投票所 木場小学校	木場川前、木場上組、木場下組、木場八割、木場新田
第十投票所 黒鳥公民館	黒鳥一〜五、緒立、北場



新幹線と側道(山田・立仏地内)

山田土地改良区内の用水路にフタを町道にガードレール。フタは考えてない

F議員 環境美化・整備について ①新幹線下に空き缶、ごみが目立つ。行政でも対策を。②山田土地改良区内の用水路にフタをしてほしい。山田市内の道路は狭く、車のすれちがいがやっとなごみも多くなり落ちていく。用水路にフタをして歩道にできないか。③山田市内に都市下水路がまったく整備されていない。計画はあるのか。

町長 ①現在、JR東日本が管理している。JRの問題という認識。②町としては事故防止・交通安全対策として町道ぞいにガードレールを設置。本年度、危険箇所の改良を完了。今のところフタは考えていない。③年次計画でしゅん

せつ・整備していく考え。山田土地改良区と町で組織する解散準備委員会で排水施設の移管の協議をするので、併せて検討していく。

企画開発課長 ①12月12日、JRに要請し、ゴミ拾い。JR側からも投げ捨ては困るとのこと。不特定多数が相手で、JRも人員少ない中で保線整備している。今後、半年から1年サイクルでクリーン作戦を地元と協力してやれば助かること。また、金網内の不法投棄は通報あれば、F議員 福祉行政について①

除去することである。保健衛生課長 ①ゴミ集積場を益と暮れに、自治会長と衛生委員主体で回っているが、新幹線下のゴミ・雑草等の巡回は町ではやれないというのが現状。

助役 ②フタできれば一番よいが、膨大な資金必要。やるとすると町の単独事業となり、財政的にすぐやるわけにはいかない。将来は公共下水道にということも考慮に入れて、移管問題・都市下水の計画を併せて考えたい。



老人憩いの家黒埼荘

値上げしないと明言していただきたい。

町長 ①老人憩いの家設置条例第3条で、町内の65歳以上は無料、60歳から64歳までは一人150円、その他ひとり100円。町外者は一人300円。特別の場合、一日につき15000円。

②平成2年度建設予定。料金についてはまだ検討していない。今後検討し、来年度、条例を提案したい考え。明言についてはコメントさしひかえない。

税務課長 ①入湯税について広報がチラシを使ってPRしたい。